

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団体名	帯広市民バレエ公演実行委員会	
施設名	帯広市民文化ホール	
助成対象活動名	人材養成事業	
内定額(総額)	714	(千円)
公演事業		(千円)
人材養成事業	714	(千円)
普及啓発事業		(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第4回帯広市民バレエ 「コッペリア」	平成30年12月16日	演出・振付：篠原聖一、指揮：磯部省吾、管弦楽：帯広交響楽団、 出演者：オーディション選出の地元バレエダンサー89名他	目標値	901
		大ホール		実績値	1,240
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	912
				実績値	1,240

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

昭和62年に帯広市において市民オーケストラ「帯広交響楽団」が誕生しました。一貫してプロの指導を受け、演奏技術の向上が図られたことにより、市民参加のバレエ、オペラ公演が実現しました。

本事業では、地域のバレエの普及、向上を目指すとともに企画、運営、公演の過程においてバレエ出演者、オーケストラ、スタッフなど多くの市民が参画し、公演を通して市民の文化の関心を高めるとともに新たな特色ある地域文化を形成し、芸術文化活動の活性化につながることを目的に実施しました。

1年以上の準備期間を経て公演に至った過程には、実行委員の役割分担を明確することと共に情報が1ヶ所に留まらないように情報共有したことが事業の成功の大きな要因になり予定どおり事業を進めることができました。

当ホールには、帯広市民劇場運営委員会、帯広交響楽団の事務局があり、日頃より団体との関わりの中から人脈が広がり、多くの人とのつながりの中からこのような大規模公演が実施できたと考えます。

文化ホールの役割としては市民に鑑賞・参加・創造・自己表現・交流の機会を提供することだと思えますが、本事業が新たな文化創造の機会として文化団体・市民の横断的な交流、活動の場になったと考えます。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

本事業では、帯広・十勝のバレエ講師で組織する市民バレエ『ティアラの会』、帯広交響楽団、帯広市民劇場運営委員会、帯広市民オペラの会、帯広市教育委員会、一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団（帯広市民文化ホール）という文化団体と行政が実行委員会を組織して実施しました。各団体の役割分担を明確にするとともに連携しながら進めたことにより、全国的にも類をみない市民参加のバレエ公演が成功したと考えます。

実行委員だけではなく、出演者、運営スタッフ、当日のボランティアスタッフなど総勢300人の市民が本事業に関わり、文化団体等の横断的な活動・交流により地域の文化活動の活性化が図られ、帯広・十勝の地域の発展にも貢献できたと考えます。

今後も4年に1度の継続開催を目指しています。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

本事業は、企画、運営、公演まで多くの市民や文化団体が参画したバレエ公演です。オーディションにより選出された89人の出演者、市民オーケストラ、スタッフなど約300人の市民が参加しました。出演者、スタッフは可能な限り地元の人材の登用に努めましたが、人材不足のため、演出振付家、指揮者、舞台監督は外部から招へいすることを余儀なくされました。演出振付家、指揮者、舞台監督の指導のもと、企画、運営、舞台技術(舞台・音響・照明)を地元スタッフが担い舞台を作り上げました。

主催団体であります帯広市民劇場運営委員会が中心となり「舞台人の会」を組織し、本公演の舞台設営に参加し、舞台監督から舞台作りのノウハウを学びました。今後の当市で実施する市民参加の大規模舞台公演などでスタッフを共有する体制づくりの基盤を作ったと考えます。公演終了後には「舞台人の会」の事業として市民を対象に、舞台芸術創造講座『魅せる舞台を創る』を実施するなど今後に向けて取り組みを行っています。

平成26年に実施した第3回帯広市民バレエ公演の鑑賞者アンケート結果では、40代以降の鑑賞者が全体の6割を占め、20～30代の鑑賞者が少なかったという状況でしたが、今回の公演では、広報紙の作成、オーディションから本番まで地元新聞などで取り上げてもらう、リハーサルを公開するなどPR活動に力を入れたことにより、10～30代の鑑賞者が全体の4割と若年層の増加につながりました。公演に来た理由としても4割近くの方が市民バレエや演目に興味があったと回答していて、初めて市民バレエを観たという回答も多くみられ、幅広い層の市民に理解と関心を深めてもらうことができ鑑賞者の増加につながったと考えます。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

実行委員会設立前の昨年2月に準備委員会を実施し、事業の詳細を協議し、4月に実行委員会を立ち上げ、事業を開始しました。実行委員会の役割分担を明文化したことにより、実行委員各々の業務内容が明確になり、スムーズな運営になったと考えます。

定期的に運営スタッフによる会議を実施して各担当の進捗状況を報告、確認し、情報を共有したことにより計画通り事業を進めることが出来たと考えます。

バレエ出演者の練習については、6月にバレエ出演者を選出するオーディションを実施し、7月から12月まで半年間に亘る練習期間を経て本番を迎えました。出演者のほとんどが小学生から高校生ということもあり、基本的に週1回の練習という無理のない日程を組み立て実行しました。

事業費につきましては、おおよそ予算通り進めることができました。より芸術性の高い公演を目指したため、当初より演出振付家によるゲストダンサーと地元出演者の練習回数が増加したことに伴い、旅費、宿泊費が当初予算より増えましたが、他の予算を削減するなど収支をみながら進めたため、おおよそ当初の計画通りに進んだと考えます。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

今回の帯広市民バレエ公演では、過去3回実施した「くるみ割り人形」から「 Coppélia」に演目を変え、運営体制についても当財団主体の実施から、市民バレエ『ティアラの会』、帯広交響楽団、帯広市民劇場運営委員会、帯広市民オペラの会、帯広市教育委員会、一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団で組織する実行委員会体制へ形を変え実施しました。

主催団体の役割分担を明確にするとともに、情報を共有したため、6者の連携が取れたと考えます。

帯広・十勝のバレエ講師で組織する市民バレエ『ティアラの会』が本事業の主体的な役割を果たし、公演を成功に導いたことは大きな収穫と言えます。

当ホール職員は、過去3回の実績、経験を活かしつつ、ティアラの会はじめ実行委員会を舞台・制作面で全面的にサポートし、多くのボランティアスタッフの協力のもとで本事業を実施することができたと考えます。

今回、新たな演目「Coppélia」に取り組み、演出振付を第1回市民バレエの演出振付の篠原聖一氏、指揮を第3回帯広市民バレエの指揮者の磯部省吾氏に依頼し、高みを目指した公演の実現に取り組みました。演出振付家による練習につきましては、バレエ出演者はもとより地元指導者の研鑽にもつながったと考えます。篠原、磯部両氏による指導のもと、バレエ・管弦楽出演者のレベルの向上が図られ芸術性の高い公演になったと考えます。

本公演ではバレエとオーケストラとのリハーサルを市民に公開し、228人の市民が鑑賞しました。また、ゲネプロに帯広養護学校、帯広聾学校、中札内養護学校等の生徒、保護者57人を招待、公演には帯広市内で就学援助を受けている生徒、保護者37人を招待しました。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

本事業では、主催団体6者で構成する実行委員会体制で企画運営しましたが、当ホール職員は、過去3回の市民バレエ公演での経験、実績で培われてきた企画制作のノウハウを生かし、会の取りまとめ役としての役割を担いました。

舞台技術職員においては、演出家、舞台監督の意向を酌みながら照明、音響プランを制作し評価の高い舞台となりました。第3回の市民バレエ公演においては、公益社団法人日本照明家協会第34回照明家協会賞舞台部門新人賞を受賞しています。

本事業の取り組みについて一般財団法人地域創造坪池栄子氏とノンフィクション作家の神山典士氏が来帯され、公演前日のゲネプロ取材していただき、その内容が「地域創造レター」(No286 2019.1.25)に掲載されました。

また、公益財団法人北海道文化財団には、本事業とともにこれまでの市民参加型舞台公演の取り組みを上げていただき、「北の情熱2019-まばゆいダンサーが彩る夢物語 帯広市民バレエ」が制作されました。現在、北海道文化財団のHP上で閲覧可能になっています。

このことにより、本事業を含め、今まで実施してきました市民バレエ、市民オペラが評価を受け帯広市の文化活動が全国に発信されたと言えます。このことは地域の文化の向上発展に大きく寄与するものと考えます。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

帯広市民文化ホールには現在9名の舞台係が在籍していますが、資格取得、研修受講などでレベルの向上を図り、習得した知識、経験を地元文化団体の公演利用者の要望を最大限に生かし照明、音響を実施するという形で還元しています。本事業はじめ、市民参加のバレエ、オペラ公演においては、毎回、音響、照明プランナーとして舞台づくりに参画しています。

事業終了後も2級音響技術者認定講座受講やアートマネジメント・舞台技術研修会に参加し、スキル向上を目指し研鑽を積んでいます。今後もスキル向上の取り組みを継続し、習得した技術を市民に提供したいと考えます。

本事業において職員が経験、実績で培ったノウハウを今後の地域の文化団体・個人の文化芸術活動に様々な形で貢献できるよう努めたいと考えます。

また、舞台芸術活動に主体的に携わり、その魅力や価値を広く振興するための多様な人材（アーティストやスタッフ）を帯広・十勝で発掘・育成することを目的に表現者だけではなく舞台芸術に関心を持つ人を増やす取り組みを進めていきたいと考えます。

市民参加の大規模な公演では、市民の理解を得ることはもとより、財政面での支援も必要不可欠になります。本事業では事業開始後に市内企業より支援の申し出をいただき特別協賛していただきましたが、今後、理解者を増やしていくことも含め、今回の事業で形成された体制の上に新たな回路を見出し組織展開をしていきたいと考えます。